

第 124 回 日本解剖学会総会・全国学術集会 参加レポート

筑波大学人間総合科学研究科完成認知脳科学専攻/
医学医療系 解剖学・神経科学研究室
當銘 幸貴

今回、3月27日から29日に新潟県新潟市朱鷺メッセで開催されました、第124回日本解剖学会総会・全国学術集会におきまして、LEGEND Travel Award Programにより支援頂き参加いたしました。

本学会で私はIL-17Aと流産についてポスター発表を行いました。免疫学の先生を始めとして様々な分野の方々から研究手法や今後の研究の方向性など、貴重なご意見をいただき、実りのあるディスカッションを行うことができました。

日本解剖学会は基礎研究から臨床まで、多種多様な領域の先生方が参加されております。本学会は並列にいくつものシンポジウムが行われているのですが、どのセッションも魅力的で取捨選択には頭を抱えました。私は神経系・免疫系を中心に、自分の領域外の心臓・血管や人類学などのセッションに参加しました。中枢神経系では神経発生におけるシグナル分子や、神経発生およびシナプス形成に關与するグリア細胞の話題が目立っていたように感じます。ペリニューロナルネット陽性興奮性神経細胞と恐怖条件付け学習の研究成果は、記憶痕跡研究における目新しいトピックでした。

領域外のセッションで印象的だったのは非モデル動物についてのセッションで、コウモリやゼブラフィンチ、魚類（ヨシノボリやハゼ）の行動学・神経解剖学的な解析は非常に興味深く、非モデル動物を使うことの意義について学ぶことができました。普段の研究活動ではめったに触れることがないような知見を、最先端の研究者から学ぶことができるのが、本学会の魅力だと思います。

最後になりますが、この度の学会参加におきましてBioLegend様、Tomy Digital Biology様によりご支援頂きましたことに心より御礼申し上げます。今学会での経験を活かし、今後とも研究に邁進いたします。